

## 令和5年度 第1回 甲賀市学校給食センター運営委員会 会議録

### 1. 日時

令和5年7月20日（木） 14時00分～15時00分

### 2. 場所

甲賀市役所別館会議室101

### 3. 出席委員

木村健二委員、乾斉司委員、駒井文恵委員、三石彩香委員、松原峰生委員、長嶋房代委員、村田喜代美委員、石橋智子委員、小川由佳委員、石川まりや委員、齊藤千穂委員

### 4. 欠席委員

林浩美委員、前田拓志委員、上分仁委員、堀井洋明委員、隠岐良達委員、今枝加奈子委員

### 5. 関係者

教育委員会 立岡教育長

教育委員会事務局 松本次長

教育委員会事務局学校教育課 菰田課長補佐

教育委員会事務局教育総務課東部学校給食センター 森本所長、増山栄養教諭

教育委員会事務局教育総務課西部学校給食センター 藤井所長、徳地栄養教諭

### 6. 事務局

教育委員会事務局教育総務課 田原課長、神山課長補佐、熊野給食係長、河部主査

### 7. 傍聴人

1名

### 8. 会議内容

(1) 開会（司会：教育総務課 田原課長）

黙祷

市民憲章唱和

(2) あいさつ（教育委員会 立岡教育長）

(3) 自己紹介

運営委員会について

（説明 教育総務課 熊野係長）

(4) 運営委員長・副委員長の選出【資料P1～P7】

規則第7条に基づく

・委員長 木村健二委員

・副委員長 駒井文恵委員

(5) 議事

議長（木村委員長）による進行

①議長・副議長あいさつ（木村委員長、駒井副委員長）

②会議の公表について

（説明 事務局）

甲賀市附属機関の会議の公開等に関する指針の運用に基づく  
一同承認

③各学校給食センターの概要について【資料P8～P10】

（説明 事務局）

概要について

- ・各学校給食センター、配食数、配食先、主食、副食、地場産物の使用、職員数、業務委託、給食献立等

東部学校給食センター設備改修計画について

- ・現在18年目を迎え、厨房機器をはじめとした設備の経年劣化が見受けられるため、安全・安心な給食を提供するための取り組みを進めている。
- ・令和5年度から令和7年度にかけて、調理場、炊飯室、洗浄室など各部屋に備え付けられている厨房機器の更新を行う。受注者は株式会社中西製作所京都営業所、受注額は531,300千円。
- ・建築物としてはボイラ、蒸気配管、給排水配管などの改修を行う。
- ・令和5年度は改修に伴う設計業務、令和6年度はボイラ等の建築改修工事を予定している。

質問・意見等は、特に無し。

④給食献立について【資料P11～P12】

（説明 学校給食センター 栄養教諭）

- ・学校給食は、学校給食摂取基準を基に栄養管理をしている。
- ・多様な食品を適切に組み合わせるよう配慮し、旬の食材を使うよう心がけている。
- ・7月3日の「びわこの日献立」には、小鮎を使い、びわこの恵みを味わう機会とした。
- ・不足しがちな栄養素をたくさん含む食材を意識的に使った献立も実施してる。
- ・4日の「鉄ちゃんの日」は鉄、5日の「カルちゃんの日」はカルシウム、12日の「ファイバー君の日」は食物繊維をテーマとしている。
- ・7日の「七夕献立」等、行事食も大切にしている。
- ・10日の「かみかみ献立」は、かみごたえのある食材を使っている。
- ・14日の献立は、様々な地域の郷土料理や食材を味わう機会として取り入れており、今月は沖縄県。
- ・食育の日である19日前後には、「ふるさと献立」を実施しており、甲賀市や

滋賀県の食材や郷土料理を取り入れた献立にしている。

- ・給食では、甲賀市産の米や茶、野菜などを使っている。7月の甲賀市産の野菜は、じゃがいも、キャベツ、ズッキーニ、玉ねぎ、トマト、にんにく、青ねぎ、しいたけ、杉谷とうがらし、なす、ピーマン。みそは、甲賀市産の大豆と米を使い、梅干しは、地域の方が作られた甲賀市産の梅を使っている。
- ・これからもおいしく楽しく食べられて、教材になる給食となるよう努めている。

質問・意見等は、特に無し。

#### ⑤食物アレルギーの対応について【資料P13～P14】

(説明 事務局)

- ・保護者に使用食材のわかる献立表を事前に配布し、アレルギー対応が必要かどうか確認、申請してもらっている。
- ・保護者から申請があった場合は、献立表を確認し担任教諭の指導のもと、食べられない献立を除いて配食する。
- ・保護者からの申請により給食を提供停止した場合は、弁当を持参してもらっている。
- ・対応食としては、卵は豚肉と玉ねぎの炒め物、パン・麺・ナンはごはんを提供している。
- ・アレルギー対応食の申請集計は小学校の実人数74名、中学校の実人数11名、計85名。令和4年度は76名であり、10名ほどアレルギー対応申請が増えている。
- ・アレルギー対応食の食器は、基本の食器が白色に対して対応食の食器はグリーンでわかりやすく提供している。

<質問・意見等>

委員

- ・(アレルギー対応申請数が)小学校と比べて中学校の人数が2分の1にならないのはアレルギーが治ったということか。どのような統計の取り方をしているか。

事務局

- ・申請に対する数になる。

委員

- ・申請者の比が小学校、中学校の人数と合わない。小学校と中学校で(児童生徒の)人数比が2対1なのにこんなに差が出るのは何か理由があるのか。

事務局

- ・アレルギーは年齢を重ねるにつれて改善される子も一定数いるので、中学校になると減ってくる。小学校の中でも、低学年の間は卵や小麦が駄目だったが、高学年になりアレルギーが改善され、食べられるようになる子もいる。そのため、単純に人数比にはならないと思われる。また年齢が上がると、周りとう

ものを食べたくないという子もいるので、そのようなことも影響しているのではないかと思われる。

委員

- ・小学生はアレルギーの過剰な診断があるのか。

事務局

- ・アレルギーの有無については、医師の診断による。

委員

- ・嫌いなものをアレルギーだと言っているのが入っているのか。あまりにも論理的に合わない数字が並んでいるので事情をききたいと思った。

事務局

- ・アレルギーの申請については、医師の診断を出していただき、どの食品にアレルギーがあるか出していただく。小学校の数に比べて中学校の方が少ないということについては、個別に見ていないが、今までパンが食べられなかった児童が中学校に入って食べられるようになったということはある。卵については小学校に比べて中学校の申請数がかなり少ないということが現実にある。

委員

- ・小学生の親が過剰な反応をして、中学生になれば自分の判断でということか。

事務局

- ・そうではない。

委員

- ・私の姪は卵アレルギーがひどかったが、やはり年齢を重ねるごとに改善したということがあった。先ほどのお話も考えるとあながち単に2分の1になるという考え方にはならないと思う。

委員

- ・こんなにアレルギーって治るものだったかと疑問に思った。

委員

- ・対応食で容器の色が変えてあるが、同じ教室で食器の色が違う、食べるものも違うことになる。こども同士わかっているかもしれないが、クラスの中であの子だけ違うものを食べているというような話などを聞いたことはないか。

栄養教諭

- ・小学校では、給食が始まる4月にこの子はアレルギーがあるという話をされてみんなで誤食を防ぐ。この子はこれが食べられないから、という話を先に各クラスでし、アレルギーについても子どもが理解した上で給食を食べる。あの子だけずるいという話にはなっていない

委員長

- ・各学校はどうか。

#### 委員

- ・学校では入学時に保護者や生徒と十分に話し、アレルギーの話をしても良いか確認をしてから、学級で話をする。対応食はみんなと違うものということになるが、命が大事だという話をするとう理解してくれる。今のところトラブルになったことは本校ではない。

#### 委員

- ・本校では今年度からアレルギー対応食を提供する生徒がいる。入学を迎えるまでに西部給食センターで食器を借り、職員が本番さながらのシミュレーションをして準備をした。ただ、卵の高騰の関係なのか、給食に出ていないので、職員の気持ちも若干薄れたまま夏休みに入った。給食に対応食が出る場合には、再度事前に食器を借りて、シミュレーションが必要と認識している。

#### 委員

- ・令和3年度アレルギー対応2品を追加、エビ・カニは材料としては使わないということになった。昨年度のアレルギー対応会議で乳・乳製品についても使わないという方向で進めていきたいということで話があったかと思うが、令和5年度乳製品は使用しないと明記されると考えて良いか。

#### 事務局

- ・乳については、昨年度のこの委員会でも市教委の考えということで話をした。実際には献立には使っていないが、明記されたものが必要なため全体的なマニュアルの見直しを進めている。完成したら、学校現場、給食センター、事務局の共通理解のもと進めていきたいと思う。その時には皆さんにもしっかり報告をする。

### ⑥給食費について【資料P15】

(説明 事務局)

- ・学校給食法に基づき、材料費は原則保護者の負担とされている。それ以外の学校給食の実施に必要な施設、設備及び人件費は、学校の設置者である市が負担している。
- ・令和4年度材料費の決算見込み額は、337,753,735円。
- ・甲賀市の給食費は、合併以前は町によって異なり、甲南町と甲賀町で最大200円の差があったが、合併を期に、園1,800円、小学校3,500円、中学校4,000円で統一され、価格据え置きで現在に至る。
- ・県下で最も低価格だが、栄養教諭が工夫をこらし、バランスのとれた給食を提供できるよう取り組んでいる。よりよい給食を提供できるよう、また、物価高騰による食材費の高騰などの問題に対応するため、給食費とは別に、材料費を市が負担する予算を計上している。

質問・意見等は、特に無し

⑦学校給食向上のための取り組みについて【資料P 16～P 17】  
(説明 事務局)

質の向上について

- ・保護者に負担いただく学校給食費に上乗せする形で、質の向上に1千万円、地産地消に3千万円、物価高騰に2千万円予算計上している。
- ・質の向上に対する取り組みは令和3年度から実施している。
- ・3点の考え方を基本に取り組んでいる。1つめは給食食材自体の質をあげる(自然塩の使用 など)、2つめは給食時間の質をあげる(〇〇の日の趣旨に合わせた賄い材料やデザートを追加する など)、3つめは栄養をしっかりとする(液体コーヒーなどを提供して残食を減らす など)。

地産地消の取り組みについて

- ・世代を担う子どもや若い世代へ、学校給食を通じて食文化の継承を意識した食育を進める。
- ・地産地消を通して食を大切にする心を育み、食品ロスの少ない食生活を実践することにもつながるよう取り組みを進める。
- ・令和2年度から産業経済部と連携し、2年度3年度でそれぞれ2千万円、4年度及び今年度においては3千万円を予算化し地元産食材の使用を進め、地産地消を推進している。
- ・米については、もともと100%甲賀市産だった。野菜に関して、甲賀市産は令和2年度が約20%だったが、令和4年度は35%と15%ほど増えている。
- ・甲賀市産の納品率が多少減っている品目もあるが、概ね増加の傾向となっている。以前は納品がなかった品目でも、徐々に新しく納品できる体制も整いつつある。

材料費高騰に伴う補填について

- ・小麦や油、牛乳など様々な品目で物価の高騰が続いているため、食材の物価高騰に対する補填として当初予算で2千万円を計上している

<質問・意見>

委員

- ・いろいろ取組してくださり、ありがたい。
- ・地元のものを使用するのも良いが、かんぴょうなど子どもが好きでないものもあり、結構残っていると子どもから聞く。それだけにこだわらずに給食の残飯率というのはどうなっているか。統計はとっているか。

事務局

- ・残飯については、堆肥化をしている。
- ・残飯を量ることはしていないが、大体何人分くらい残ったかのメモをとっている。給食センターの栄養教諭などが見て、献立に反映するようにはしている。

#### 委員

- ・子どもによく献立のことを聞くが、具体的に言うとそら豆の炊いたやつはあかん、あれは即刻やめて欲しいと言っている。その割にはよく出ると。多く残っているらしい。
- ・例えば子どもたちのリクエストなり、保護者たちのアンケートなりでそういうものがリサーチできると残飯率も減るのではと思う。
- ・堆肥化するにしてもエネルギーが必要になってくるので、そのあたりご一考いただければと思う。

#### 栄養教諭

- ・毎月大体2校ずつアンケートを取っており、具体的に教室での子どもの様子、反応、食べた感想などを書いてもらっている。人気のあるもの、そうでないものがあるので、次の献立に生かしている。

#### (6) その他

西部学校給食センターで起きた事故について

(説明 事務局)

- ・経緯、市の指導ならびに処分、市の対応 等

質問意見は、特に無し

<委員長からその他意見交換を呼びかけられるが無し>

#### 委員長

皆様のご協力のおかげで議事の全て終わることが出来ましたので、議長を解任させていただきます。どうもありがとうございました。

#### (7) 閉会

次回の予定 (令和6年2月末頃)

終了